

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	高所救助訓練における自己確保の省略行為。地上7m付近に要救助者1名との想定による高所救助訓練中、3連はしごにて上階へ進入したファーストアプローチの際に、携行資器材の選定に失敗、後続の隊員が進入するまでの間、自己確保なしという危険な状態での高所作業となった。
3. 体験した事例の中心的要素	要救助者の意識レベルはクリアであるが、下腿を挟まれ動けないとの情報を聴取したが、要救助者の状況を地上からは視認できず、接触及び救出を急いだ結果、進入隊員の携行資器材等安全確保を疎かにした。
4. 体験した事例の原因・理由	突発的危機状況からある事柄に集中し、見境なしに直進してしまうという場面行動と区分される心理的危険要因が現れた事例。つまり、救助事案の発生に際し、今まさに救出を求める声に隊員の視野が狭くなり、救出を急ぐことに極端に集中してしまったからだと推測する。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 2 月 20 日 午前 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：地上7m訓練塔上階
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（通常時の訓練）、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	高所救助訓練、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[26]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[27]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士]、同様の活動[過去に1,2回程]、任務[隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A及びB	情報収集と並行して救出準備を実施。携行資器材を選定。	
経過2	当事者A	3連はしごにて上階へ進入。	30mロープ1本及び縛帯を携行。
経過3	当事者A	自己確保を取らず要救助者観察を実施。	要救助者は下腿部に挟まれあり。
経過4	当事者B	切断器具を携行し、上階へ進入。	コードレスレスキューコン ビツールを携行。
経過5	当事者A及びB	自己確保を取るためのロープ等資器材の携行が不足していることに気付いた。	
経過6	当事者B	資器材の補填のため、地上へ降梯。	
経過7	当事者A	自己確保を取らず継続して要救助者観察及び上部支点の作成を実施。	
経過8	当事者B	安全帯及び活動ロープを携行して上階へ進入。	
経過9	当事者A及びB	活動ロープを設定し、自己確保を実施。	
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

後方からの監視の目が行き届いていた。他隊(員)から適切な注意を受けた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	いいえ
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：危険に対する知識・理解・認識が不足していた。あるいは意識・感覚が低下していた。
--

ヒヤリハット発生状況図

